

和歌山大学のディプロマ・ポリシー

和歌山大学卒業時に身につけているべき能力を、5つの要素で構成したディプロマ・ポリシーにより、次のように定める。5つの要素の比重や具体は各学部・学環で異なるが、卒業する全ての学生がこの5つの要素に関わる能力を身につけている必要がある。

1. 幅広い教養と分野横断的な学力
 - ・教養教育により、普遍的な思考力と、時代や社会が求める実践的な力を身につけている。
 - ・専門分野の枠を超えて求められる知識や思考法などの知的な技法の基礎を身につけている。
2. 専門的知識や技能
 - ・専門分野における十分な見識を身につけることにより、専門職業人としての知識・技能を備えている。
3. 課題解決力と自己学修能力
 - ・修得した知識・技能を活用して課題を解決し、主体的に学び続ける能力、意欲と態度を備えている。
4. 協働性とコミュニケーション能力
 - ・他者と協働して物事に取り組み理解する能力、意欲と態度を備えている。
5. 地域への関心と国際的視点
 - ・地域の特性を理解し、地域の課題解決に寄与する意欲や態度を備えている。
 - ・異文化理解力、コミュニケーション力を身につけ、国際的視野を備えている。

教育学部のディプロマ・ポリシー

和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、教育学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、「地域とともに学びの未来を拓く教師」として次の目標に到達していると認められる者に学士（教育学）の学位を授与する。

1. 幅広い教養と分野横断的な学力
 - ・学術文化の基盤となる幅広い学術的教養を身につけている。
 - ・論理的に考える力や情報化社会に対応する実践的な力を身につけている。
2. 専門的知識や技能
 - ・学校教育において教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を身につけている。
 - ・幼児期から青年期に至る子どもの発達を見通し、個々の多様な教育的ニーズを理解し支援できる。
3. 課題解決力と自己学修能力
 - ・子どもたちに関わる専門職として、生涯にわたって学び続ける基盤を有している。
4. 協働性とコミュニケーション能力
 - ・基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を行うための基盤を有している。
5. 地域への関心と国際的視点
 - ・地域の特性を理解するための基盤となる知識や技能を身につけている。
 - ・国際理解・異文化理解の能力を身につけている。

和歌山大学のカリキュラム・ポリシー

(1) 教育課程編成の視点と内容

1. 本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を育成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と各学部の専門分野を体系的に学ぶ教育課程を設置する。
2. 学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。
3. 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進すると共に、それらに充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限（キャップ制）を設ける。
4. 授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析にもとづき、個々の授業科目の教育効果や、学生の学修到達目標の達成状況について検証し、教育課程の改善につなげる。

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

1. PBL やグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うことで、社会人や職業人として必要なコミュニケーション力や協働する力、課題解決力などを身に付ける機会を設定する。
2. 様々な授業形態（講義、演習、実験、実習、実技など）を利用しながら、対面や遠隔、オンデマンドを適切に組み合わせた授業を行うと共に、学習管理システム（LMS）の利用を促進することで学習効果を高める。
3. 学生の履修を支援し、自己学修能力を育成するために学修ポートフォリオを利用し、学修状況の確認、学修計画の立案や振り返りの機会を提供する。
4. 履修上特別な配慮を要する学生に対し、適切な支援を行う。

(3) 学修成果の評価方法

1. シラバスに到達目標や評価方法を明示し、評価の透明性を確保すると共に、小テストや試験、レポート、口頭試問など多様な評価方法を用いて妥当性・信頼性のある成績評価を行う。
2. 学修ポートフォリオにて成績評価や GPA、DP 達成状況を示すことで、学生が学修成果を確認でき、その後の履修や自らの進路に資する情報を提供する。
3. 卒業研究等を課すことで、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を行う。

教育学部のカリキュラム・ポリシー

教育学部のディプロマ・ポリシーに示された資質・能力を養成し、「地域とともに学びの未来を拓く教師」を輩出するために、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と、教員免許を取得でき、かつ教育に関わる学術的・実践的な学びを体系的・系統的になしえる教育課程を設置する。教育学部の専門の教育課程は、コース共通科目、教職科目、専攻専門科目、実習関連科目、卒業業績からなる。また学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図（カリキュラム・ツリー）や履修モデル等として明示する。学生調査や各種データの分析結果を踏まえ、教育課程の点検・改善についても継続的に行う。

(1) 教育課程編成の視点と内容

(和歌山大学カリキュラム・ポリシー1~4を適用)

1. 共通教育の学びを通して、社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養や語学を基に、社会人として必要な資質・能力を育成する。(DP1 に対応)
2. 子どもの発達や学校教育において教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を育成するために、教職共通科目や教科共通科目、専攻専門科目等を設置する。(DP2 に対応)
3. 子どもたちに関わる専門職として社会や学校教育に関わる様々な課題を解決する資質・能力や生涯にわたって学び続ける基盤を育成するために、教育についての諸問題に対する関心を喚起するコース共通科目や各専攻専門に演習科目等を設置する。(DP3 に対応)
4. 基本的人権を擁護し、他者と協働しながら社会活動や教育活動を行うための資質・能力を育成するために、教育実地研究や教職実践演習等を設置する。(DP4 に対応)
5. 地域の特性や課題を理解すると同時に、国際理解・異文化理解の能力を育成するための科目をコース共通科目等に設置する。(DP5 に対応)
6. 教育学部ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力を総合的に発揮する科目として卒業業績を課す。
7. 学生の興味・関心や進路希望に沿った自律的な学習を集中的に行うためのアクションタームの設置や、学校教育や地域の現状を学ぶための教育ボランティアの機会の提供等、授業時間外での学修を促進する。(DP3、DP5 に対応)

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

(和歌山大学カリキュラム・ポリシー1~4を適用)

1. 実践的指導力の基礎を育成するために、学校園での参観・体験や教育実習、その振り返りの機会を設定する。

(3) 学修成果の評価方法

(和歌山大学カリキュラム・ポリシー1~3を適用)

1. 教育学部のディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を卒業業績で行い、「地域とともに学びの未来を拓く教師」として求められる資質・能力が身についているかを確認する。
2. 学修ポートフォリオに加え、4年間の教職関連科目の学修過程の記録や自己評価、振り返りを促すために「学びの軌跡（教職カルテ）」を活用する。